

地域から、日本の医療の未来を描く

# 黒潮医療人養成プロジェクト 第3回 合同シンポジウム

3.8 2025  
[土]

9:00～13:00 8:30～受付開始  
ダイワロイネットホテル和歌山 4階 ブリエ  
和歌山県和歌山市七番丁 26-1

参加  
無料

会場参加

オンライン参加

お申し込みはこちら

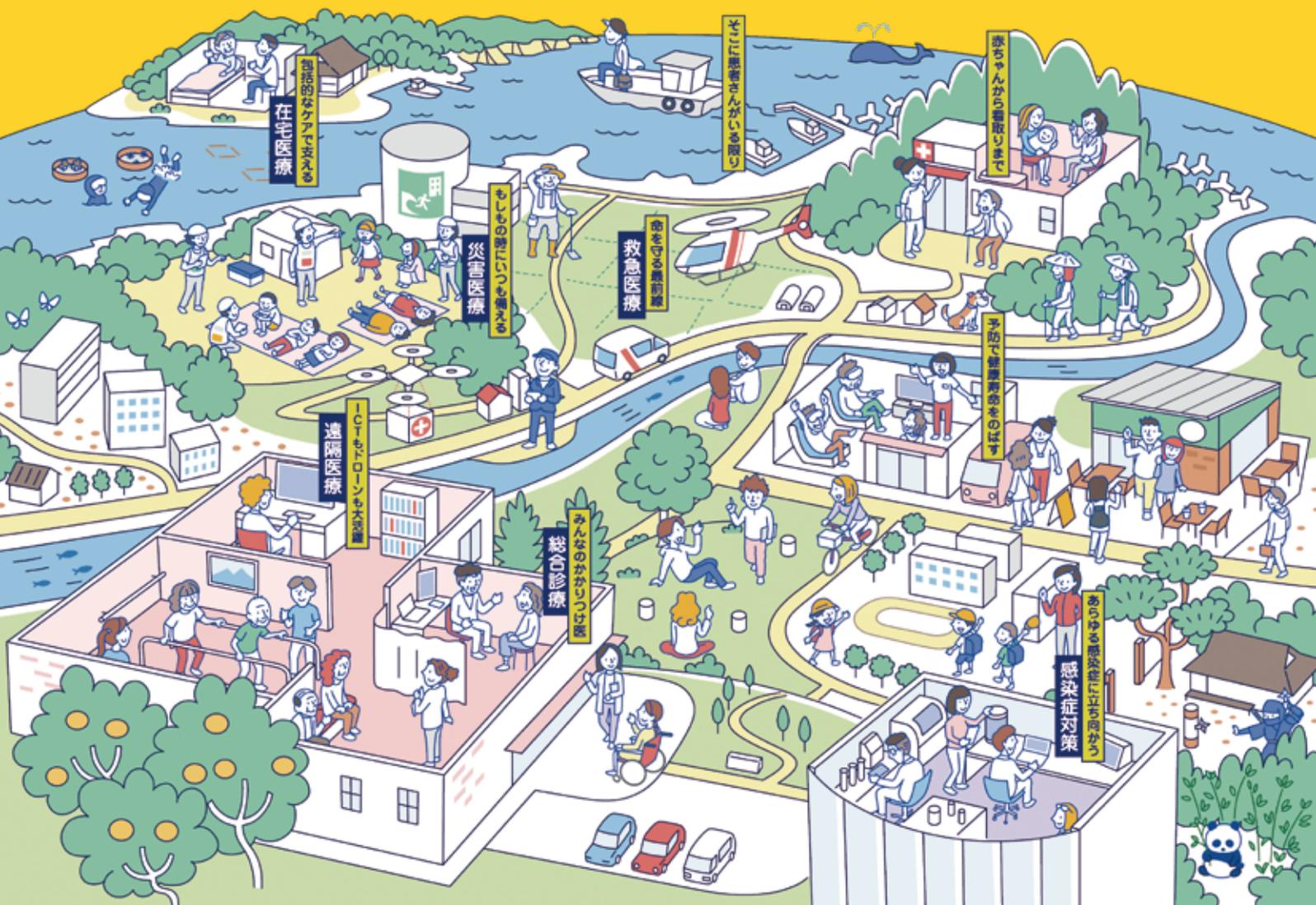
本シンポジウムはハイブリッド形式で開催いたします。会場での  
ご参加・オンラインでのご参加のどちらかお選びいただけます。  
お近くの方は是非、会場へお越しください。

●お申し込み期限  
2025.2.14(金)



黒潮医療人養成  
プロジェクト

WEBサイト  
はこちら▶▶▶



【主催】和歌山県立医科大学 【後援】和歌山県、一般社団法人和歌山県医師会、公益社団法人和歌山県病院協会、朝日新聞和歌山総局、毎日新聞和歌山支局、読売新聞和歌山支局、産経新聞社、共同通信社和歌山支局、時事通信社和歌山支局、日本経済新聞社和歌山支局、NHK和歌山放送局、和歌山放送、テレビ和歌山、紀伊民報、わかやま新報

# 黒潮医療人養成プロジェクト、始動！

大きな転換点を迎えた日本の医療。

その最前線は、患者さんのいちばん近くにある地域医療です。

本プロジェクトでは、過疎高齢化や遠隔地の医療確保、将来の南海トラフ地震被害など多くの課題を共有する高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学が協働し、地域拠点病院での実習やICT学習を低学年から展開することで、新時代の地域医療人材の養成を目指します。

## 地域と生きる未来の医療人とともに、第3回シンポジウムを開催いたします。 皆様のご参加をお待ちしております。

シン ポ ジ ウ ム ス ケ ジ ュ ー ル	9:00	開会・挨拶	和歌山県立医科大学 理事長 中尾 直之
	9:05	祝辞	和歌山県知事 岸本 周平
	9:15	特別講演①	「南海トラフ巨大地震の地震・津波想定はどのように理解すべきか」 講師／宍倉 正展（国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター 連携推進室 国内連携グループ長）
	10:15	休憩	
	10:20	特別講演②	「世界の大規模災害の現場から」 講師／國井 修（公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）CEO・専務理事）
	11:20	休憩	
	11:30	取組事例報告	①「医学部生の防災意識に関する調査研究について」 和歌山県立医科大学 医学部生 ②「ドローンと配送ロボットを活用した医薬品配送の実証実験について」 和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長 蒸野 寿紀 ③「地域医療教育でのPOCUS（Point of care 超音波）の活用について」 紀美野町国民健康保険国吉・長谷毛原診療所 所長 多田 明良 ④「和歌山県における遠隔外来の利活用について」 和歌山県立医科大学 医学部生 ⑤「北山村地域医療研修センターの設立と黒潮医療人養成プロジェクトとの連携の可能性について」 国保北山村診療所 所長 内川 宗大 ⑥「県外地域医療人材養成拠点病院での選択制臨床実習の感想」 3大学 医学部生・研修医
	12:55	次回開催挨拶	高知大学
	13:00	閉会・挨拶	和歌山県立医科大学 医学部長 川股 知之

講師

宍倉 正展 氏

国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター 連携推進室 国内連携グループ長

特別講演

「南海トラフ巨大地震の地震・津波想定はどのように理解すべきか」



1969年千葉県大多喜町生まれ、2000年千葉大学大学院自然科学研究科博士課程修了し、博士（理学）学位取得、同年に通商産業省工業技術院地質調査所に入所、2001年より産業技術総合研究所の研究員として活断層や津波に関する地形・地質の調査研究に従事。東北の巨大津波の可能性を東日本大震災前に国に報告していた業績から、2012年に研究チームとして文部科学大臣表彰を受賞。2020年に日本活断層学会に発表した論文で能登半島の地震隆起の可能性を指摘（同学会論文賞受賞）、政府の地震調査研究推進本部などの委員として国や自治体の防災施策にも関わる。著書は「次の巨大地震はどこか!」（宮帯出版社）など。名古屋大学減災連携研究センター客員教授を務める。

講師

國井 修 氏

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）CEO・専務理事

特別講演

「世界の大規模災害の現場から」



自治医科大学卒業、公衆衛生学修士（ハーバード公衆衛生大学院）、医学博士（東京大学）。国立国際医療センター、東京大学大学院（専任講師）、外務省経済協力局（課長補佐）、長崎大学熱帯医学研究所（教授）、国連児童基金本部（シニアアドバイザー）、ミャンマー・ソマリア国事務所（保健・栄養・水衛生事業部長）を経て、2013年より9年間、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の戦略・投資・効果局長。人間力大賞（TOYP）グランプリ、吉川英治文化賞、ゼロ・マラリア賞などを受賞し、「ニューズウィーク日本版」で「世界に貢献する日本人30」に選出。著書に「人類VS感染症 新型コロナウイルス 世界はどう闘っているのか」、「世界最強組織のつくり方ー感染症と闘うグローバルファンドの挑戦」など。長崎大学、千葉大学、東京大学、京都大学などで客員教授を務める。

プロジェクト代表校【高知大学】

連絡先：高知大学医学部病院事務部総務企画課 地域医療支援室  
☎088-888-2744 ✉kuroshiodmp@kochi-u.ac.jp

本プロジェクト当番校【和歌山県立医科大学】

連絡先：和歌山県立医科大学地域医療支援センター  
☎073-441-0845